



社会・産業構造が大きく これまで守り続けてきた 持続的成長を図ると

実行中の第10次中期経営計画『Sanyo Global Action 2019』において、“山陽ブランドのグローバル化による持続的成長の追求”をテーマに掲げ、
 ー生産構造改革の実行をはじめとする事業基盤の強化による盤石な企業体質の確立ー、
 ー研究開発・品質競争力の強化による技術先進性の更なる追求ー、
 ー「高信頼性鋼の山陽」のグローバルブランド化の推進ーという3つの基本的方針に基づく重点施策に取り組み、人・技術・利益の持続的成長を追求しています。

2018年度の取り組みについて具体的に申し上げますと、鋼材の小径・小ロット化等の需要構造変化に対応し、将来にわたって通用する生産構造への変革に向けて主力の第二棒線工場のボトルネック解消工事を計画どおり推進したほか、当社の超高清浄度鋼製造プロセスをさらに発展させた極超高清浄度鋼製造プロセス[Sanyo Ultra Refining Process]や、極めて高い高硬度と高い靱性を兼ね備えた冷間工具鋼[QCM64-HARMOTEX®]を開発するなど、事業基盤の強化と技術先進性の拡大を図りました。

また、海外においては持分法適用関連会社であったインドの特殊鋼メーカーMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.を2018年6月に連結子会

変化する経営環境においても、 経営理念「信頼の経営」の実践を通じて もに、持続可能な社会の実現に貢献します

社化したことに加え、2019年3月に日本製鉄の子会社となると同時に欧州における有力な特殊鋼メーカーであるスウェーデンのOvako ABを完全子会社化したことで、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るための安定した経営基盤を構築するとともに、日本・欧州・インドに特殊鋼一貫製造拠点を構え、国内外のお客様のグローバル展開と高品質な特殊鋼製品へのニーズに応える体制が整いました。

このほか、2019年2月に健康経営優良法人(通称「ホワイト500」)に認定されるなど、従業員の安全と健康を事業活動の最優先事項とし、従業員の心身の健康増進と生き活きと働くことができる職場づくりを推進しております。

当社グループを取り巻く経営環境は、自動車産業におけるCASE革命をはじめとする大きな社会・産業構造の変化に直面しています。また、国際社会全体の普遍的な目標として国連で掲げられたSDGs(持続可能な開発目標)や、ESG(環境・社会・ガバナンス)を重視する考え方が急速に広がっており、企業には持続可能な社会の実現に向けた貢献と持続的な成長が求められるようになってきました。

このようにグループを取り巻く経営環境は大きな構造変化に直面していることに加えて、足元の世界経済は、通商問題や地政学的要因等を背景とした不透明性の拡大により、景気が減速している厳しい状況です。しかしながら、中長期的には世界経済は緩やかに拡大し、高品質な信頼性の高い特殊鋼製品へのニーズはさらに高まっていくものと考えております。また、これまでも幾度となく大きな環境変化がありましたが、当社グループは、常にその時代その時代で新しい技術に挑戦しつづけてきた努力の積み重ねにより、「高信頼性鋼の山陽」ブランドの信頼を築き上げてきました。

当社グループは、これからも「信頼の経営」の実践を通じてあらゆるステークホルダーの皆様からの信頼を積み重ねていくことで、大きく変化する経営環境下においても自らの持続的成長を図るとともに、持続可能な社会の実現に貢献し続けてまいります。

本レポートを通じて、当社グループの活動内容をご理解いただき、一層のご支援とご助力を賜りますよう、お願い申し上げます。

当社グループは1933年の創業以来、鉄スクラップを主原料とした電気炉製鋼法による高品質な特殊鋼づくりを通じて、豊かな社会の発展と資源循環型社会の実現に貢献してまいりました。“社会からの信頼”、“お客様からの信頼”、“人と人との信頼”の確立をめざす「信頼の経営」を経営理念とし、その実践を通じて誠実・公正・透明な企業経営を推進し、ステークホルダーの皆様との信頼を積み重ねることが、当社グループが将来にわたって守っていくべき価値観であると考えております。

このような認識のもと、当社グループは、現在

樋口真哉